

発達障害児と保護者支援のためのスタッフ研修

特定非営利活動法人 市民サポートセンター明石
〒674-0058 兵庫県明石市大久保町駅前 1-7-5 Ocean II-209

助成事業の概要

目的は、次の3点であった。①専門知識、および実際的な子どもへの支援方法を習得する（新しい分野であり、より良いサービス提供には学習が欠かせない）②保護者支援に取り組む（最も子どもに接する時間が長い保護者を支えることが、子どもを支えることに繋がる）③地域における連携を強化する（福祉と教育など、子どもに関わる関係者がつながることで効果的な支援が可能となる）

4月30日を皮切りに、3月23日まで、全18回の研修会を明石市内で開催した。テーマは「コミュニケーションツールとしてのドイツゲーム」（2回）「ADHDについて」「保育の現場で役立つ関わり方」（4回）「福祉と教育の連携を考える」（2回）「チームビルディング」（2回）「これからの児童発達支援」「暴力と子ども」（2回）「現場での関わり方」「自立した生活のために」「新しい診断基準からみた自閉症スペクトラム障害」「子どもの声を聴く」であった。

事業の成果

全18回で、延べ211名のスタッフが研修に参加できた。それぞれに高い専門性を持っておられる、多彩な講師の方々にご協力いただき、非常に中身の濃い研修を実施できた。比較的少人数で、じっくりと取り組むことができたので、スタッフには大変好評だった。また、講師の方々とのつながりが一層強くなって、次年度以降の研修につ

いてご相談することもできた。

事業所を開設して1年余だったことから、組織作りのための「チームビルディング」を2回実施できたのはとてもありがたかった。チームでする仕事であるにも関わらず、非常勤職員が大変に多く、スタートしたばかりの事業所であるため、「チームワーク」は大きな課題であった。様々なワークを通じ、また皆で「クレド（信条）」を作り上げる作業の中で、組織として一歩前進することができたと感じる。リーフレットを新しく印刷したので、早速みなで作った「クレド」を掲載することができた。

「地域における連携」も、重要なテーマだと捉えていたが、「あかし発達支援連絡会」との共催で「福祉と教育の連携を考える」として大きな取り組みができた。行政、教育委員会などの関係者と一般市民51名の参加を得て、開催することができた。成人の支援をしておられるパネリストとつながることができ、新たな研修をすることもできた。保護者が子どもといっしょに参加されて、将来について考える良い機会をいただいたと喜んでいただけた。

全18回のうち、半分の9回は公開講座として保護者、地域の事業所、関係機関などに案内をした。結果、111名の外部の参加者があり、助成金を有効に使うことができた。他の事業所と顔の見える関係を作ることができたのは、今後子どもたちのためにも良かったと思う。

■ 成果の広報、公表

基本的に、内部のスタッフ研修なのでマスコミ等への連絡はしていない。

■ 今後の展開

2014年4月より、2か所目の障害児通所支援事業所「りぼん step センター」が本格的に動き出した。大変にニーズが高いので、一層心を引き締めて日々の業務に取り組んでいきたい。質の高いサービスを提供するために、今後もスタッフ研修は欠かせないと考えている。昨年と同様、外部で実施される研修にも積極的な参加を促したい。

3年目に入る「りぼん kids センター」では、「対人援助を考える」をテーマに、上級コースを設置して研修を実施する予定である。

新たな展開として、保護者支援のために交流の場を設ける、新しい魅力的なプログラムを開拓するなど検討したい。また地域連携を進めるために「支援機関見本市」の開催や、「支援機関一覧ハンドブック」の作成にも取り組みたいと考えている。